

中国江蘇省昆山工場の稼働



フラットパネルディスプレイ(FPD)製造装置の製造および部品の補修を通じて、中国におけるパネル産業の成長に貢献します。

中国における製造拠点新設の背景

東京エレクトロングループは、中国江蘇省において新たにFPD事業の製造拠点を新設しました。従来よりFPD製造装置、および保守部品の製造は日本国内で行っていましたが、昨今の中国における製造装置需要の高まりに対して、より迅速な対応とコスト構造の改革を新工場で行うことを主眼としています。新工場は延床面積28,246m²で、工場棟、事務棟の計2棟から成り立っています。当初は定期補修などの業務からはじめ、装置

の改造および一部製造なども行う予定です。今後も、日本国内において差別化技術の開発を継続させながら、拡大する中国市場において柔軟に対応し、競争優位性を強化していきます。

私たちは、この工場を発展させ成功に導くことによって昆山市、ひいては中国におけるパネル産業の成長に貢献していきます。

東京エレクトロン 中国江蘇省昆山工場

- 社名：東電光電半導体設備(昆山)有限公司(中文)
Tokyo Electron Kunshan Limited(英文)
- 所在地：中国江蘇省昆山経済技術開発区東光路8号
- 業務内容：FPD製造装置の製造および部品の補修
- 着工/完成：2011年1月/2012年3月
- 延べ床面積：28,246m²



開業式では現地行政の関係者および当社グループ関係者約350名が出席し、獅子舞などが披露される中、新工場の完成を祝いました。

迅速にお客さまの要望に対応

新工場で行う業務の一つに FPD 製造装置の定期補修があります。この工程は、従来日本で行っていた補修作業をお客さまにより近い場所で行うことにより、迅速にお客さまの要望に対応することを可能とします。また、定期的に適正なメンテナンスを行うことにより、品質の確保はもちろん、お客さまにより装置を長く使用いただくことができます。さらには、補修のために日本に消耗品やスペアパーツを輸送する際に発生する環境負荷を削減することにもつながります。



新工場の製造現場（大型加工機）

工場の計画段階から環境に配慮

新工場では、その計画段階から省エネルギーや省資源などの面で環境に配慮しています。例えば、施設の廃熱を回収して空調へ再利用することにより省エネルギー化に貢献しています。また、純水製造時に発生する余剰水を年間約 2,000m³、洗浄水として再利用することを見込んだ設計としています。さらに、排煙口として設けた天窓からの採光により、明るい作業現場となっています。

工場の運営においても、化学物質を含む廃液の処理においては、その発生量を抑えることはもちろん、適正な排水処理を行い、排水中の化学物質の濃度を厳重に管理しています。

※1 RO：Reverse osmosis operation、逆浸透法のこと。



RO※1 水処理室



総合系排水処理設備



純水製造装置



薬液貯蔵設備

東京エレクトロンの中国初の製造工場として

東電光電半導体設備（昆山）有限公司は当社グループ初の中国の工場として設立され、発展目覚ましい中国市場へ向けて製品を出荷します。最初の製品は FPD 製造装置およびその部品の補修品で、10社、20工場以上の FPD メーカーのお客さまの満足度を向上させ、信頼を得るべく事業活動を展開していきます。

新工場は、計画段階から非常に厳しい中国環境規制を考慮した結果、その規制値をクリアしています。近年、中国は環境保護に非常に真剣に取り組んでおり、国家基準と各州都市独自の規制基準値をもって厳しく管理しています。特に厳しいのは排水と排ガスに関してであり、本工場のアルマイト設備※2や溶射設備では最高レベルの処理性能によって対応しています。

環境規制に対応した当工場から、「東京エレクトロン品質の QCD（Quality：品質、Cost：コスト、Delivery：納期）でお客さまの満足、信頼」が得られる装置メーカーを目指します。

※2 アルマイト設備：アルミニウムに耐食性や耐摩耗性を付与する工程の設備



東電光電半導体設備（昆山）有限公司
 董事・総経理
 黒野 洋一